

## 第18回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

### やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日 時 令和3年11月24日(水) 15時00分～16時05分
- 2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち8名出席
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議経過 (1) 開会 15:00  
(2) 挨拶  
傍聴確認(事務局より傍聴者2名と報告)  
議事録署名確認  
(名簿順につき太下委員に依頼→了承)  
資料確認(配布漏れなし)  
(3) 議事  
①東京2020オリンピック・パラリンピック  
聖火リレーについて  
②松戸市事前キャンプの実施について  
(4) 閉会 16:05

#### 6 議事概要

##### ○長江会長

皆さん、こんにちは。本日は第18回松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ推進会議にお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきますが、委員の皆様方の協力を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

コロナウイルスの関係もございますので、議事につきましては一括して事務局よりご説明をしていただきました後、委員の皆様方からのご意見をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から説明をよろしく願いいたします。

(事務局から一括して説明)

**○事務局**

説明の途中ですが、橋口委員が急遽所用のため途中退席となります。ご意見等頂戴したいと思います。

**○長江会長**

どうぞ、よろしく申し上げます。

**○橋口委員**

先ほどご説明いただいたとおり、8月18日に本学の学生3名がパラリンピック採火式と、そして本学の学生2名で集火式ということで、貴重な体験をさせていただきました。トーチも我々松戸歯学部の方にも置かせていただきまして、今、学内で展示をしているところでございます。

また、先日、本学の学園祭がありまして、学内だけの公開でオンラインで行ったのですが、そのときに、水泳のブラインドの選手で金メダルと銀メダルを取った木村敬一選手に講演をいただきまして、その際に、今回のトーチとランタンをオンライン上ではございますが、ステージで木村選手と一緒に対談のときに置かせていただきまして、本学学生と教職員にも見ていただいたという形になります。

以上、簡単ではございますがご報告となります。

**○長江会長**

ありがとうございます。

(事務局から説明の続き)

**○長江会長**

ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様方からご意見や今後のレガシーとしての取組などについてご提案がありましたら、ぜひ伺いしたいと思います。各委員の皆様からいただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

佐々木委員いかがでしょうか。

**○佐々木委員**

まず1つは、この取り組みにつきまして、事務局はそんなにすごく多い人数ではないにもかかわらず、これだけの作業とオリンピックに関する入国とか感染症対策とか、本当に大変な中で、さらにプラスアルファでメッセージを作成したりと、今感動しています。そんな中で、オリンピックを終えて、自分も東京オリンピック競技ではなかったのですが、実際のところ何の影響もないのかなと

思っていたんですけど、緊急事態宣言が終わって、昨日も木更津市のイオンでパフォーマンスをしたのですが、イベントとかでお客さんと接して、終わった後にサイン会とかに並ぶ人がいつもよりはるかに多くて、そういったところで、日本がスポーツに対してすごく今温かい気持ちになっているので、こういったメッセージとかは、本当に感動しています。それを自分は、こういう会議に参加しているにもかかわらず細かいところまで全然知らなかったのは、ちょっと恥ずかしいぐらいで本当に申し訳ないんですけども、そういうのをレガシーということで、かなり地道なものが多いとは思いますが、今後このまま継続していけたらなというのを思っています。

#### ○長江会長

ありがとうございます。それでは、須田委員のほうからお願いしますか。

#### ○須田委員

今の佐々木委員と同じように、私も直接的には参加させていただけなかったのですが、これだけのものをやっていたんだということを改めて認識したことと、観光分野でいうと、コロナの影響により観光も人が減っていて、今は全然まだお客さんが来ていない。ただ、うちの近くから出ている日帰りバスツアーなんかは、このところ人が増えてきていますので、第6波が来なければ、恐らく今後は人が徐々に増えていくんだろうと思います。

また、オリンピックの話に戻すと、少ない人数だけど、本当に皆さん、大変だったなと思っております。先ほど出ましたが、レガシーという部分で、例えばドミニカ共和国であれば梨の事業、ルーマニアで言えば七草マラソンに選手を呼んだりなど、それだけでいいのかということも含めて、今後どんなことを続けていくのかということを考えていただければ非常にありがたい。その中で観光が協力できるようなことがあれば、改めてご協力をさせていただきたいと思っております。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。それでは、太下委員のほうからお願いします。

#### ○太下委員

今までご報告いただいて、コロナ禍の中で、皆さん本当にご苦労様でした。市民の皆さんをすごく盛り上げていただいたなということを改めて理解できました。一方で、コロナ禍だったので、実際の交流というものは基本的にできないという残念な状態ではあったんですね。ただ、今、須田委員もおっしゃったように、このコロナは未来永劫続くわけじゃないですので、いずれ収束するということを考えると、もっと日本に来ていただく、松戸と交流するという場面を、改めてもう1回考えていってもいいのかなと思っています。今回、オリンピックということで、在日大使館とも松戸市はコミュニケーションをとることができていらっしゃるので、ぜひコロナが収まるのを見計らって、改めて市民

レベルの交流ですとか文化交流を、ぜひこの2つの国、ドミニカ共和国とルーマニアと続けていっていただければなと思います。

オリンピックのムーブメントというか、何だかんだ言って日本人はオリンピックがすごく大好きな人たちなので、1年遅れましたけど、全然気にせずにみんな楽しんでいたような気もしますし、さらに言うと、ご案内のとおり、実は1年ずれたせいで、すぐ来年は北京オリンピックになります。さらにその2年後はまたパリオリンピックということで、実はオリンピックがものすごく凝縮して我々の身近なところで続いていくということもありますので、この熱気はそのままパリまで続いていくような気もします。ぜひそれを持続するような形で、スポーツ交流だけじゃなくて文化交流も含めて考えていただければなと思います。

今度、迎える側の日本として考えると、2025年は大阪万博がありますので、さすがにこの頃は完全にコロナの影響もないと思いますので、おそらく結構な方が来るだろうなと思っています。大阪万博では、当然、大阪を目指していく人が多いと思いますけれども、例えば空港で考えると関空だけでは処理できない数ですし、大阪だけ行って満足するということでもないでしょうから、きっとほかの場所、また東京とかにも立ち寄るだろうということを考えると、松戸市は成田空港からアクセスがいいということもありますので、観光振興ということを2025年をめどに考えていってもいいのかなと思っています。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。尾崎委員、いかがでしょうか。

#### ○尾崎委員

まずは佐々木委員の全日本三連覇おめでとうありがとうございます。ぜひパリでは新種目として入ることを私も期待したいと思っています。

今回、この会議が18回目ということで冒頭からお話があって、本当に数年にわたる活動がこういう形でアウトプットされているということは、もうちょっとこうしたらよかったなとかあるにせよ、ここまでの成果が上がったということは、本当に関係の皆さんの努力の結果かなと思って、松戸市の一スポーツメーカーとしても大変うれしいと思います。異例中の異例のオリンピックということで、時には人の命とスポーツイベントのどちらを取るのかと、こういうところまで話が行くぐらい、オリンピックの意義とかパラリンピックの意義とかを本当に考えさせられた大会ではなかったかなと思います。我々もスポーツメーカーの立場とすれば、バブルの中で活動するということがどれほど大変なのかということは、選手、ボランティア、コーチ、そういう方々を見ていると、よくこの状況であれだけのパフォーマンス、あれだけのリスク対応をよくされたなど、本当に日本人でよかったなど、こんなふうにも感じました。

レガシーということから考えますと、私、これはちょっと記憶が定かではな

いんですけど、この会議は最初の頃、パラアスリートがどれぐらいいるとかちよつと分からないとか、そういうようなところから始まって、ゆかりの選手がどれぐらいどの種目にいるとか、今はリストアップされていると思います。こういうことをスポーツアスリートだけじゃなく、音楽、文化、その他の方が市民の中にいないかということの整備も進むと思います。それからもう一つは、作成したメッセージを見ていますと、コロナ禍ではなかったら、過去のやり方でただ市民を集めてイベントをしようよとか、その程度でやっていた感じもします。ぜひともこういう状況だったからこそ考えた内容を、このスポーツイベントだけではなくて、行政の市民サービスの中でたくさん生かしていただけるということが、まさにオリンピックのレガシーかなと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。伊藤委員、お願いします。

#### ○伊藤委員

皆様からご意見ありましたけれども、こういう非常にイレギュラーな厳しい状況の中で、松戸市としてオリンピックへの取り組みが行われたということで、本当に関係者の皆さんには御礼申し上げたいと思います。特に私も関心がありました、いわゆるホストタウンに立候補ということでドミニカ共和国とルーマニアを引き受けて、なかなか日本の1つの自治体で2つの国を引き受けられたというのは、そんなに数多くないと思うんですけども、松戸市が非常に立派にそういう対応をされて感謝状まで頂いたということは、松戸市のステータスアップというか、知名度アップにもつながるという意味で非常によかったと思っております。

レガシーということでいうと、当初私が想定したのは、コロナ禍でなければ、松戸市民がルーマニアとドミニカ共和国の関係者といろいろな交流をして、非常になじみができて関心も高まって、じゃあそういう国へ行ってみようとか、松戸市とその国で何かできないだろうかとか、そういった盛り上がり、本来であればできたのではないかと思います。けれども、こういう状況下で、松戸市がせっかくホストタウンになっても、ドミニカ共和国とルーマニアに今回の取り組みでどれほど関心を高められたかどうかという点から見ると、それほど2つの国の知名度アップにはつながらなかったのかなと思うところはあります。しかし、せっかくこういう形で、一部とはいえ、いろんな交流ができて、そういう関係者との交流も行ったわけですから、それを途切れさせないで、何かの形でこの2か国との間でつながりが、これからも細々でもいいと思うんですけども、つなげていけるような基礎、土台をつくっていききたいなと思っています。

そういう点からいえば、ドミニカ共和国のコンスタンサという市との間では

梨の交流をやっていますし、それをつなげて、そうした都市と何か提携をするとかというようなことで将来つながっていく可能性があるんですけども、ルーマニアとの間には、せつかくこういう陸上選手がたくさん来てつながりもできたので、ルーマニアのブカレストですか、向こうの市との間で何か交流がつながっていけばいいなと思います。

地方自治体である松戸市は、ルーマニアやドミニカ共和国という国を相手に何か交流をするというのは、立場の違いがあつてなかなか難しいと思うので、松戸市が両国のどこかの深い関係ができた地方自治体とスポーツ分野でもいいし、何かいろいろな分野で今後交流ができるようなきっかけに今回はなつたと思うので、このまま終わってしまうのはちょっともったいないなと思いますので、それに向けて松戸市として取り組んでいただければなと思っています。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。薄葉委員、よろしく申し上げます。

#### ○薄葉委員

尾崎委員からあつたように、オリンピック開催については、政府としては、やるのは決めていたのかもしれませんが、マスコミの議論の中で、やるかやらないかみたいなのはいっぱい出ていましたよね。そうした中でも、やってよかったと感じます。テレビを通じてですけども、選手の真摯な姿とか、熱気って誰かおっしゃっていましたが、テレビを通してでも熱気を感じるわけですから、そして感動もいっぱいした。テレビで見る映像以外の大変な努力があるんだろうなと、そんな想像をしていましたけれども、今まさに事務局の報告を聞いて、ルーマニアとドミニカ共和国の2か国が見えないところでの努力など、大変なことなんだと当然想像できますよね。こんなようなことを見て、まさにやってよかった大会だつたと思いますし、イレギュラーだからこそ、見えない何かが見えたというお話もありましたけれども、そういうこともあるのかなと思います。

そして、レガシーという点では、これだけの記録とこれだけの映像で報告してくれた事務局の方々が、これまで委員の皆さんがおっしゃったすばらしい意見をまとめてくれるのかなと、こんなふうに思っております。

松戸市としてホストタウンをやってよかったなど、大変だつたでしょうけど、よかったな、いい経験したなど、こういうふうなことを思っております。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。それでは、皆様方のほうから自由にご意見をいただけたらと思うんですけど、先ほど自分のところに回ってきたときにちょっと言い忘れてしまったとか、そういうことがありましたら、ぜひ手を挙げていただいといます。

### ○須田委員

太下委員にお聞きしたいのですが、これは松戸に限らず、日本の文化プログラムというのは、実態としてどういう形になっていたかあまりよく見えてこなかったもので、もしお分かりになればお聞きできればと思うのですが

### ○太下委員

そうですね。あまりよく見えなかったですよ。これは多分、スポーツと状況は一緒で、やっぱりコロナの影響を相当受けて中止になったものも多いですし、実際に実施されたものも、大半が無観客というか、映像配信という形になりましたので、世の中の的にやっている感というのは、残念ながら出なかったんですね。

ただ、そうした中でも、東京都は開催都市ということもあって、それなりにやっていましたし、地方自治体で見ても静岡県は首長がすごく熱心だったということもあって、あとは、運ですよ。何かやろうとしていたときにコロナの波が来ちゃうと、全部もうチャラになっちゃうんですけど、静岡の場合は本当に運がよくて、やろうとしていた大きなプログラムが全部、有観客でできていたというなかなか稀有な都市なんですね。開催したレガシーを残していくために、文化振興の特別チームを立ち上げてもいるので、ある意味、数は少ないかもしれませんが、非常にレガシーの残る形でオリンピック文化プログラムを実施されている事例もあります。

### ○須田委員

ありがとうございます。

### ○長江会長

よろしいでしょうか。ほかにもぜひご発言いただければと思います。

### ○佐々木委員

終わってすぐ言う話ではないのかもしれないんですけど、この後どういうふうにつながっていくのかなというのが気になりました。須崎選手にしても、お忙しいとは思いますが、ちょっとずつイベントとかができるようになってきて、そういうのをうまく使って市民と触れ合う何かイベントを考えているのかとか、そういうのがあればお聞きしたいなと思っています。

### ○長江会長

いかがでしょうか、事務局お願いします。

### ○事務局

須崎選手などのメダリスト、あとゆかりの選手たちにつきましては、できれば皆さん一堂に会して報告会という形で市民の方に見ていただきたいなと思っています。今、スケジュール調整の段階なので、感動を皆さんと共有するような場面をつくりたいなと思っているのと、聖火リレーのトーチも、できれば子どもたちに直接触れて体験してもらうような機会を企画したいなと考えております。

○佐々木委員

ありがとうございました。

○長江会長

ありがとうございます。年明けぐらいになるんですか。

○事務局

年度内、年度末ぐらいにできればと考えております。

○長江会長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

じゃあ、私からよろしいでしょうか。

委員の皆様方から出ましたように、この推進会議が18回ということですから、リオのオリンピックの時期からずっと7年間ぐらい続けているということからいいますと、継続は力だなとつくづく思いますし、だからこそコロナを正しく恐れて、コロナだからできないではなく工夫して行うという、その姿勢が実際に事前キャンプにも生きていたんじゃないかなと思います。相手国から事前キャンプできませんという自治体もあったでしょうし、自治体のほうからできませんというところもテレビのニュースなどでは、よく注目しておりましたが、松戸市の粘り強さというのはすごいなと私は思っています、先ほど委員の皆様方からありましたように、一過性ではなくドミニカ共和国とルーマニアのご縁は大切にしていきたいと思います。

それと、今回、スポーツ文化というかパラリンピックの文化について、開催国でなければ、これほど多くパラリンピックの映像を見ることがなかったと思います。そういう意味では、この推進会議がダイバーシティの部分を含めて、それこそSDGsじゃないですけど、持続可能なスポーツに対する関心と、それから市民がスポーツに親しんでいくまちというような部分をレガシーとして残して、この影響というのは続けていっていただかないともったいないかなと思います。何とかこの2020年から1年延期しましたけれど、やり抜いたレガシーというものを、しっかり市民として伝えていっていただければと思います。

それから、ぜひ交流イベントは対面とともにオンラインのライブ配信と、それからビデオ撮りをして、ユーチューブなどで見るができる時代ですから、後から見ることでできる形で、できるだけ多くの市民の方々にも見ていただけるような形でしていただければと思います。また、市内にある大学の教員としては、4大学がいろんな形で協力させていただいたことはとてもありがたいと思います。願わくば、これを通して、できるだけこの4大学が市内でいろんな形で、これからもドミニカ共和国とかルーマニアからいらっしやったときに、積極的に協力していくというような流れをつくっていただければ、うちの大学の学生が「子どもができたなら自慢したい」と言っていました、それがまた歴史としてつながっていくという流れだと思いますので、ぜひ歩みを止めないことをお願いしたいと思います。予算規模はどんどん縮小するかもしれませ

んけど、何とか連携できることを続けていくということをお願いできればなと思います。

産官学というか、さきほど松戸商工会議所の女性会メンバーが応援動画に参加していたように、やっぱりいろんな形の交流が記録に残っていますから、それをできるだけ多くの人に見てもらおうという機会もお願いしたいと思います。

それでは、委員の方々のほうから最後にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局のほうから何かございますでしょうか。

#### ○事務局

今、委員の皆様から大変貴重なアドバイス、またご意見を頂戴いたしまして、本当に駆け抜けてきた感じはしております。事務局の人数は少ないですけども、今日はスポーツ課とか文化観光国際課も来ていただいています。市役所の中全部が協力してくれて、何とかここまで来られたかなというところがございます。粘り強くというところが松戸市の多分強みだと思いますので、これからもいろんな方とつながって、多分このレガシーがつけられるかなと思っております。

私個人的に感じているのは、やはり松戸市って、人の魅力がすごくたくさんあるんだなということを感じております。4大学もそうですし、スポーツで活躍されている方もそうですし、企業の方もいらっしゃいますし、いろんな方々がもっともっとネットワークをつなげていけるように頑張っていきたいなと思います。

本日はありがとうございます。また今後ともよろしく願いいたします。

#### ○長江会長

それでは、本日はご協力いただきまして、本当にありがとうございます。本日の会議はこれで終了させていただくとともに、次回の会議は、また日程が決まりましたら改めてご通知させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。